

平成30年度 第2回 関有知高等学校 活性化協議会  
兼 第2回 学校評議員会 議事要旨

日 時	平成31年1月18日(金) 15:00~16:00
場 所	関有知高等学校 会議室
出席者 (敬称略、 50音順)	(協議会委員) 酒向 薫 岐阜県議会 議員 丹羽 章 中部学院大学 事務局長 武藤 哲夫 しもうちふれあいまちづくり協議会前会長 吉田 康雄 関市 教育長  (学校評議員会委員) 高井 美晴 音楽療法士 野口 正人 しもうちふれあいまちづくり協議会 副会長 渡辺 智子 下有知保育園 主任保育士  (高校側) 水谷 透 校長 梅田久美子 PTA副会長 森 里志 事務長 瀧下 博幸 教頭 大野 広行 教務主任 福山 美苗 生徒指導部長 名和 憲一 進路指導部長 佐藤 英彦 特別活動係長 長尾真由里 生活福祉科主任

<p>議事概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の様子、学校行事、課題研究発表会の感想について <ul style="list-style-type: none"> <li>・70周年記念式典における生徒の司会進行・挨拶が印象的であった。生徒には色々な場面で体験・活躍させてあげるべきで、その際には褒めてあげてほしい。自己肯定感を高めて社会に進ませてほしい。</li> <li>・70周年記念式典が素晴らしかった。生徒やPTA主体の進行の中にも、先生方の努力があった。</li> <li>・学校全体で行事を楽しんでいる感じが伝わってきた。</li> <li>・身だしなみや遅刻等、校則が緩いと感じる部分があったので、もっと厳しくしても良いと感じた。</li> <li>・以前も生活福祉科の授業で来校した時以上に成果が見られた。</li> </ul> </li>   <li>2 主体的に行動できる生徒の育成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・関有知高校1年のある生徒が1人でロードプレーヤーによるボランティア活動で草刈りを積極的にやっていることを知っている。自分に何ができるかを考え行動に移せる生徒は、関市にとっても明るいことである。</li> <li>・行事・イベントなどでもっといろいろな生徒に役を与えて、主体的に参加させたり協力させたりしてほしい。</li> <li>・学力を伸ばすことも大事だが、また違った才能を開花させていければ良い。</li> <li>・今よりレベルの高い出口を目指し、スモールステップを踏みながら学力を上げていくような実践が必要である。</li> </ul> </li>   <li>3 科の特性について <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活福祉科生徒は、具体的に目標や目的をしっかり持って活動している生徒が多い。</li> <li>・生活福祉科の数多くの生徒が試験・検定を合格していけるような手立てが必要である。</li> <li>・生活福祉科が地域に密着していると感じる。自分自身の生活から考えられる良い部分・悪い部分を反省して次の課題へつなげるという流れが良い。</li> </ul> </li>   <li>4 地域との連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>・関市の地元の産業を支えているのは関有知高の卒業生が多いことに感謝している。ものづくり産業に一層貢献してほしい。</li> <li>・関市など行政との連携をもっと取っていくべきで、学校側から遠慮なく相談しても良いと思う。</li> <li>・関有知高校存続にかけて、どんどん市へ相談・提案をしていくべきである。</li> </ul> </li>   <li>5 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関有知高校への志願者が多く、高く評価している。</li> <li>・普通科、生活福祉科ともに、生徒の実態に合った指導をしている。</li> <li>・アンケートの清掃の項目において、外から見て綺麗だと思っていたが、生徒の回答を見るとそうでもなかった。その認識のずれは何か。生徒から見て物足りないと感じるのであれば、もっと徹底してやっていくべきである。</li> <li>・職員と生徒の関係が良好で、コミュニケーションがよくとれていると実感した。</li> <li>・学校に関する情報発信が十分ではないので、ホームページを使って発信してもらいたい。</li> </ul> </li> </ol>
-------------	--